

# 衆議院国土交通委員会ニュース

平成 30. 4. 17 第 196 回国会第 10 号

4 月 17 日（火）、第 10 回の委員会が開かれました。

## 1 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の一部を改正する法律案（内閣提出第 23 号）

・石井国土交通大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

### 道下大樹君（立憲）

- ・本法律案に「移動の権利」が明記されなかったことに対する大臣の見解について伺いたい。また、将来的に移動の権利を交通政策基本法及びバリアフリー法に明記する考えはあるか。
- ・床面積が 2,000 ㎡以上の不特定多数の者が利用する建築物（特別特定建築物）については、バリアフリー化基準への適合が義務付けられるが、今回の改正において対象が拡大されなかった理由は何か。

### 森山浩行君（立憲）

- ・本法律案において障害者の定義は改められていないが、障害者の定義に関しバリアフリー法における「身体の機能上の制限」と障害者基本法における「心身の機能の障害」との違いについて伺いたい。
- ・建築物のバリアフリー化について、特別支援学校以外の学校施設のバリアフリー化をどのように推進していくのか。また、特別特定建築物の面積要件を引き下げる条例の策定を促進させるために市町村に対してどのように情報提供をしていくのか。
- ・定期的にバリアフリー施策を見直し現場の声を反映する方策について伺いたい。また、地方におけるバリアフリー化の展開においても障害者の声を取り入れることが必要と考えるが大臣の決意を伺いたい。

### 伊藤俊輔君（希望）

- ・障害の種別に応じてバリアフリー施策を展開していくこ

とが必要だと考えるが、新設される評価会議に参加する障害者は、障害の種別ごとに選ばれることになるのか。また、どのようにして選ばれるのか。更に、公平性を担保することはできるのか、評価会議の構成について伺いたい。

- ・障害者権利条約の理念を踏まえ、事業者に過度な負担とならないよう配慮しつつ、移動の権利を法律上規定することについてさらに議論を深めていく必要があると考えるが、今後政府はどのように対応していくのか、見解を伺いたい。
- ・バリアフリーが浸透した社会の実現ははまだ道半ばであるが、社会全体のバリアフリーに向け国民の理解と協力を得るためどのように取り組んできたのか。また将来的に、真の共生社会の実現に向けた大臣の見解を伺いたい。

### 宮本徹君（共産）

- ・「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」においてホームからの転落防止対策の中間とりまとめを取りまとめた後（平成 28 年 12 月）も転落事故が後を絶たない理由及び更なる安全対策への課題について伺いたい。
- ・利用者が 1 日 10 万人以下の駅も含めてホームドアを設置するなどの安全対策及びバリアフリー化推進のため、財政投融资を活用するなど、政府による思い切った対策の必要性について伺いたい。